

令和元年度 京都府農地中間管理事業 評価調査

令和2年3月3日(評価委員会)

評価項目	評価	コメント
<p>1. 意識改革と組織体制の充実</p> <p>(1)借受希望者を訪問し営農計画を聴取する、集落に入り事業説明を行う、担い手農業者などと定期的に意見交換を行うなど機構から働きかけを行ったか。</p>	<p>Ⓐ</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>借受希望者に対して、きめ細かに地道に接触活動に取り組んでおり評価する。引き続き、個々の農家の意向も把握し、要望に応えられる取組を進めること。</p>
<p>(2)現地で取り組む職員(現地推進役、集積コーディネーター)体制を充実させるとともに、研修などでスキルアップを図ることができたか。</p>	<p>Ⓐ</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>現地推進役の増員や農業委員・最適化推進委員との連携など現地で効果的に取り組んでおり評価できる。今後とも、関係機関と連携して、推進すること。</p>
<p>2. 話し合いの促進による出し手の堀起こし</p> <p>(1)府・市町村と連携し、京力農場プランの作成・見直しの中で、農地をまとめて機構に預けるよう集落に対し働きかけるなど農地の出し手の堀起こしを行ったか。</p>	<p>A</p> <p>Ⓑ</p> <p>C</p>	<p>様々な取組を行っているが、実績が目標準値に至っていない。今後、京力農場プランの実質化に向けた集落の話し合い等を通じ、集積・集約化の取組が進むことを期待する。</p>
<p>3. 機構のPRと農地所有者への喚起</p> <p>(1)機構は知事が指定した公的機関であり、責任を持って農地を管理し、使用料は確実に支払うなど事業のメリットを農地所有者に訴える取組を行ったか。</p>	<p>Ⓐ</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>色々な媒体を活用して事業のPRに努めており評価する。引き続き、様々な場面での事業PRに努めること。</p>
<p>4. 他事業・機関との連携</p> <p>(1)集落の状況を踏まえ、中間管理事業と機構関連農地整備事業や農地耕作条件改善事業などを併せて実施するなど課題解決につながる提案をするため、他事業所管部局と連携して取り組むことができたか。</p>	<p>Ⓐ</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>機構関連事業の実施要望地区において、関係機関と連携して推進チームを設置する等の取組を評価する。着実な事業実施に向け、引き続き推進チームの取組を進めること。</p>
<p>5. 令和2年度の取組み</p> <p>(1)元年度の取組み結果を踏まえた上で、2年度の取組み方針を策定することができたか。</p>	<p>Ⓐ</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>事業を推進するなかで種々の課題が見受けられるが、それらの課題を捉えて、方針を策定している。</p>
<p>総合評価</p>	<p>A</p> <p>Ⓑ</p> <p>C</p>	<p>実績が目標1,000haに達しておらずBとする。 京都府農林水産ビジョンでは農業・農村を次世代に繋げられるよう、国の食料・農業・農村基本計画では持続的に農業農村が維持できるよう道筋を示すことを目指しており、目的達成には様々な担い手を対象とした取組とすることが必要である。 農地を有効利用するための農地中間管理事業の役割は重要であり、今後も制度を活用し、幅広く事業を進めること。</p>

A: 目標を達成している

B: 目標を概ね達成している

C: 目標どおり出来ていない